

海外派遣研修助成事業による研究の成果

研究者氏名	中島 由加里	
所属機関	金沢大学大学院	
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	The University of Nottingham International research and development summer school	
渡航期間	自 2017年9月3日 至 2017年9月10日	
・研究内容 ・国際学会・会議内容	イギリス、フランス、デンマーク、オーストラリア、日本の計6カ国、約40名の研究者が集い、リンパ浮腫、創傷ケアに関する講義、演習、臨床での調査を実施した。日本からは教員とポスドクが主に参加し、学生は私1人であった。	
研究成果 (要約: 800字) <u>研修1: 日本の褥瘡アセスメントテクノロジーを海外へ導入</u> 東京大学・金沢大学では、長年褥瘡ケアの研究を実施してきた。これまでの成果に基づいた最新のケア・アセスメント技術に関して、教員と学生が講義、演習を行い、海外の研究者が同様に実施して各施設に導入できるようサポートした。具体的には、サーモグラフィと超音波診断装置を用い、創の状態を評価し、実際の患者で実施した。私は演習と患者での実施の際に、参加者へ機器の使用方法和アセスメントの視点を英語で伝えた。参加者は、初めて触れる機器に大変興味を持ち、積極的に方法を学び、各自の施設でも挑戦してみたいと語っていた。 <u>研修2: 世界的で活躍する研究者から最前線の浮腫ケアを学ぶこと</u> 一般的な慢性浮腫の病態、ケアを講義形式で聴講し、その後医師や臨床で勤務する看護師、患者、慢性浮腫ケアに従事する研究者が、実際の患者の事例を通してディスカッションを実施した。浮腫部位の皮膚状況を観察し、患者の声を反映したケアをチームで考えることができた。日本ではこのような研修で患者を交えてディスカッションする機会がほぼないため、貴重な体験であった。また、海外のリンパ浮腫患者は日本より重症な方が多いため、貴重な機会であった。また、自身の研究発表も行なった。発表後のディスカッションでは、年間数百例のリンパ浮腫症例を診ているイギリスの医師から意見を頂くことができた。 この研修を通して、英語を話す能力の不足を痛感したと同時に、海外へ研究を発信していくことの重要性や積極的に海外研究者と交流する必要性を感じ、今後の研究へのモチベーションが向上した。同時に、同年代の海外の院生とも交流が持て、今後の研究を担う若手研究者との関係を築くことができた。研修参加にあたり、援助を頂きました貴財団に深く御礼申し上げますと共に、今後の日本の看護を支える研究者として成長していきたいと思っております。 (793字)		

受給者
(中島)



臨床での調査チームの集合写真



講義後の集合写真



自身の研究発表の質疑応答場面



主催者のMoffat先生との記念撮影



International Research and Development Summer School

Course Handbook

**University of Nottingham
School of Health Sciences
3rd – 9th September 2017**

**Hosted by:
Professor Christine Moffatt CBE**



University of
Nottingham
UK | CHINA | MALAYSIA

Certificate

In recognition of your major contribution to
this international skin integrity event

Yukari Nakajima

International
Research and
Development
Summer School



CJ Moffatt

Professor Christine Moffatt CBE

School of Health Science and Medicine Faculty

4th to 9th September 2017